

華となれ!

宮城県仙台二華中学校
 学校だより 第38号
 【発行日】平成29年11月24日
 【連絡先】022-296-8104
 【文責】教諭
 菅原 正嗣

【校訓】『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

「シンガポール ウェストウッド・セカンダリースクール との交流報告特集～3日間のホームステイ受け入れを終えて～」

今号では、ホームステイを受け入れた生徒たちの作文から、交流を通しての学びの一端を紹介し
 ます。

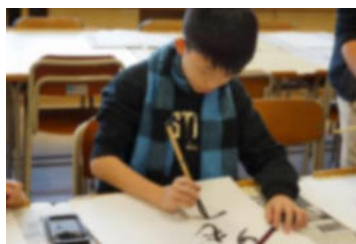
【1日（水）：学校および宮城県の紹介、餅つき体験、墨絵制作】



プレゼンで英語力を発揮

今回の11月の交流では、英語力を向上させて臨みました。その甲斐があり、3月の時よりも聞き取りやすく、話しやすくなり、会話も弾みました。私は、この時に初めて、英語の楽しさに気付くことができました。しかし、まだ理解しきれないこともあり、自分の能力をもっと高めないといけないと感じました。…また、日本のことを紹介するために、日本のことについて深く考えることができました。子供のころから慣れ親しんだ遊びや食べ物でも、調べてみると今まで知らなかった事実を知ることができました。世界から見た日本の特徴、シンガポールという国の現状を把握することができたと思います。

〔Nさん〕



墨絵に没頭する交流生徒

ついに待ちに待ったこの日が来て、私の胸は期待と不安で高鳴っていました。午前中の授業を終え、二華会館の扉をあけると久しぶりに見るバディの姿があり、これから始まるんだと気が引き締まったのを覚えています。また8カ月ぶりの再会で英語が聞き取れなくなっており、不安も感じていました。しかし、その後はそんな気持ちになる暇がないほど、餅つきや墨絵など多くのプログラムがあり、徐々に英語での会話にも慣れ、バディともうちとけることができました。

〔Eさん〕

【2日（木）：朝読書～帰りのSHRまで仙台二華中の日常を体験】



3年C組の生徒による「仙台
 ずめ踊り」の披露

2日目。この日は、学校体験をしました。1日目の戸惑いもなくなり、通訳も含め、コミュニケーションをほぼ問題なくとることができました。1、2時間目の文化交流では、日本の遊びや琴などが紹介され、シンガポールの遊びもいくつか教えてもらいました。全てが初めての遊びで、新鮮でした。3、4時間目の授業体験では、理科の実験などの時の通訳もすることができました。給食では、他の友達なども交えて、楽しく過ごすことができました。また、家に帰ってから、青葉城や瑞鳳殿などの仙台の歴史的な場所や定禅寺通り周辺などを訪ねました。どこに行くか最後まで悩んでいたため、事前準備が少し足りなく、焦ってしまう場面もありましたが、楽しんでもらえたようで良かったです。〔Kさん〕



兜をかぶって気分は正宗公

学校から帰って来てすぐ、仙台市博物館に向かいました。丁度伊達政宗の特別展を行っており、日本の侍に興味を持っていたジョナサン君はとても喜んでいました。伊達家の甲冑が一堂に会した展示は実に圧巻。顔出し看板で記念撮影をしたり、お土産にマグネットを買ったりと満喫していました。その後、仙台駅のアーケードにて買い物。いたがきのジュースを飲みつつ、ずんだ餅やこけしなど、これぞ日本、と言う物を物色しました。スーパーマーケットに行ったら彼は「ここが一番楽しかったです。日本人の日常生活が知りたかった」と、ふりかけやサバ缶、粉末スープなど、一番多くのお土産をここで買っていきました。[Mさん]

【3日（金）：「せんだい3. 11メモリアル交流館」「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」見学，閉会セレモニー】



ガイドさんの説明をバディに通訳

このプログラムの中では、外に目を向けるだけでなく自分の育った町仙台や宮城を改めて見つめ直す機会がたくさんありました。私は、故郷の町の良さや美しさを再発見すると同時に、自分が故郷についていかに知らなかったかということを知りました。…何よりも最終日に震災の跡が残る施設を見学したことが、私にとって重要な経験となりました。津波の甚大な被害を受けた地域の実態について、リアルなことを学ぶことができたからです。私自身はあまり被害を受けていませんが、海外の人には震災を教える立場の人間になります。同じ宮城県に住む者として、震災のときのことについてもっと知ることで、経験を共有することが大事なのだと思います。[Tさん]



「震災遺構荒浜小」での記念撮影

三日間の受け入れの様々なところで痛感させられたことは、対話をしようとする心、そして相手の心を感じ取ろうとする気持ちの重要性です。これらは、よく言われている当たり前のことのように思われますが、実際にそれらを意識し実行できている日本人はどれくらいいるのでしょうか。しかしバディたちは心で聞くことが私たちよりも上手だったように感じました。…これからの国際社会で生きていく上で英語は必要不可欠ですが、それはあくまで道具にしか過ぎないと思います。相手の心を思う気持ちを大切に、これからもたくさんの人との繋がりを大切にしていきたいです。[Oさん]



友好の証の絵の贈呈

長いと思っていた三日間はあっという間に過ぎ、ついに別れの時が来ました。もっと会話をしたかったし、もっといろいろな場所にも行きたかったです。お別れの会で三日間の感想をお互いに発表し、プレゼント交換や写真撮影をしているうちに、涙が出そうになる程でした。今後は直接会って交流ができないので、今まで以上に頻繁にメールでのやり取りをしたいと思います。私のバディ以外の子ともメールの交換ができたので、みんなとも連絡できると思うと、本当に嬉しいです。…これからもメールでのやり取りを続け、更に英語の勉強もして日本の文化などを詳しく説明できるようになりたいです。そしてまたいつかシンガポールに行き、バディに会いたいと思います。[Hさん]

暗中模索の中で第一回のプログラムがスタートし、事前、事後の学びを含めて約1年間にわたって行われてきた『シンガポール派遣交流』が無事終わったことを嬉しく思います。7名の二華中生は「小さな外交官（アンバサダー）」として熱心に活動しました。英語力を磨くことにとどまらず、シンガポールという国やその文化について五感を働かせて学びました。どの生徒にも共通しているのは、本プログラムを日本や故郷を見直す契機にしていることです。また、2日目の文化交流では、英語を用いてすぐに打ち解け、親交を深める3年生の姿に頼もしさを感じました。1月の海外研修旅行が楽しみです。

来年3月には、本校2年生6名がウエストウッドセカンダリースクールを訪問し、生徒間交流・研修に取り組むことになっています。両校の絆が一層堅固になることを期待します。